

コラム

① せせらぎの道



鴨川運河は、三条通で暗きよ(地下水路)となり、塩小路橋から再びその流れが姿を現します。暗きよ化の工事は、京阪本線の地下化に伴い昭和63(1988)年に行われたもので、せせらぎの道はそれに伴う川端通の整備・拡張事業の一環として誕生しました。

② 松風橋



鴨川運河が開通すると、沿線に工場が立ち並びます。その一つが松風陶器合資会社(現在は歯科材料メーカーの松風)です。元々は清水坂で陶磁器を作っていました。交通の不便さや疏水を利用した運搬への期待から、この橋の左岸に移転しました。

③ 市電稲荷停留所跡



かつて疏水の上に「駅」があったのをご存じでしょうか?昭和40年代までは京都駅から伏見稲荷まで市電が往復し、疏水の稲荷橋上が終点の稲荷停留所でした。現在は公園となり面影はありませんが、端こちらと覗いたレールが当時、確かに市電が走っていたことを物語っています。



鴨川運河とは

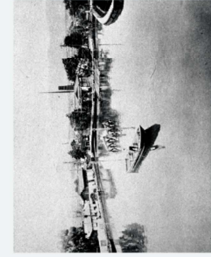
第1疏水のうち、鴨川に平行して南に流れる運河で、いものや橋周辺(伏見区堀詰町)まで全長



コラム

6 墨染発電所

墨染発電所(旧伏見発電所)は、大正3(1914)年に完成しました。伏見インクラインの上下2箇所には船溜まり(ダム)があり、この落差を水力発電に利用しました。上ダムには土留めのために植えられた桜の木があり、今も春になると見事な花を咲かせてくれます。



7 伏見インクライン跡

明治28(1895)年に完成した伏見インクラインでは、墨染発電所ができるまで、船を乗せた台車を水車の力で動かしていました。長さは約290m、高低差は15mあり、1日百隻もの船を運んでいました。昭和18(1943)年に運行休止となり、現在は国道24号が通っています。



8 いものや橋

第1疏水は、いものや橋周辺で濠川(伏見城の外堀)につながります。ここが琵琶湖疏水の終点です。その先の三榎閘門を経て宇治川、淀川と大阪までの物流ルートが整っていました。琵琶湖の水は疏水によって大阪湾まで、つながっているのです。

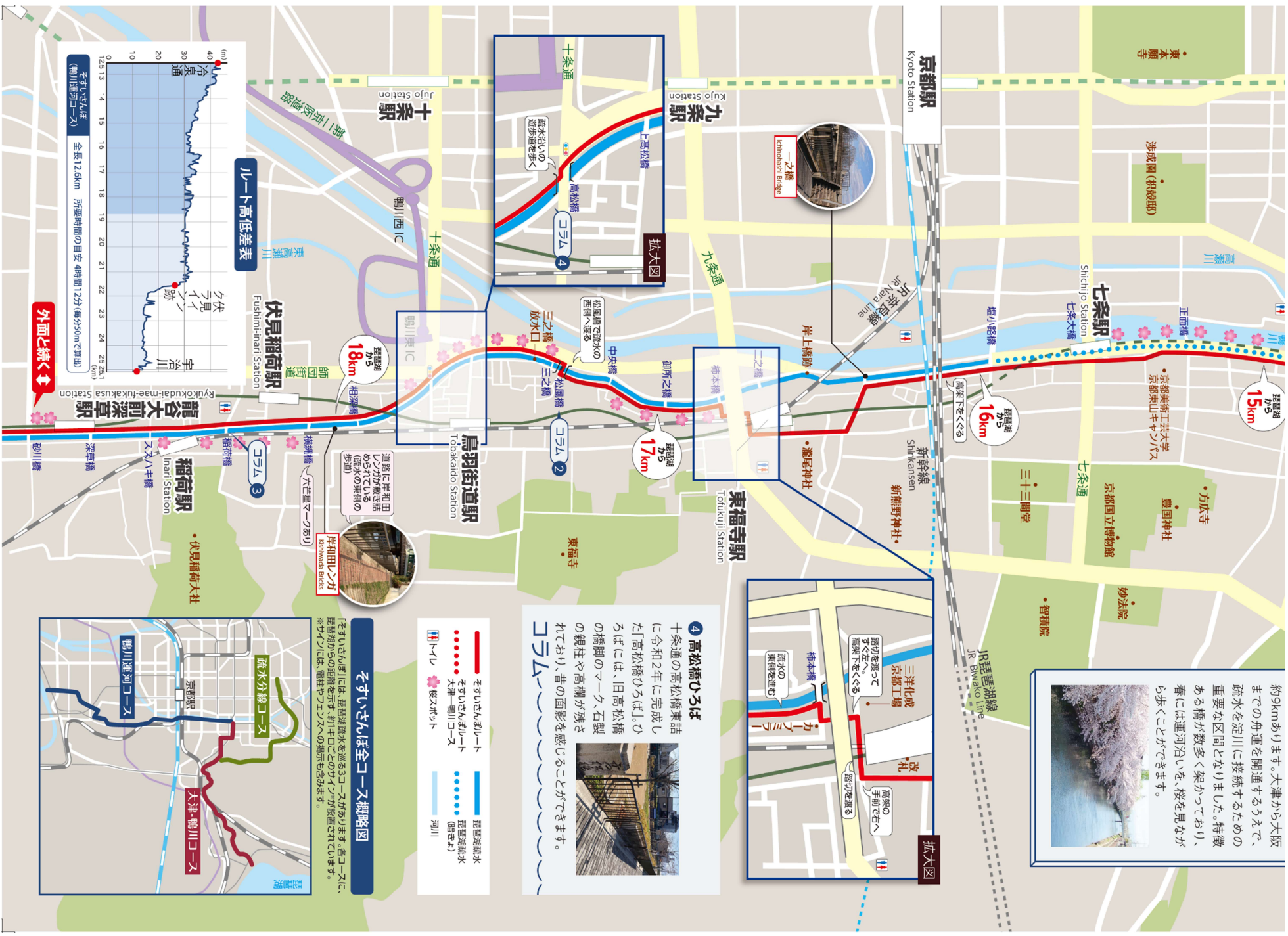


9 伏見十石舟

明治時代まで伏見～大阪を行き来していた舟を再現しています。月桂冠大倉記念館裏の乗船場を出発し三榎閘門で下船。三榎閘門資料館などを見学後、元の乗船場まで戻るコースで、酒蔵と柳並木の風情ある旅を楽しむことができます。



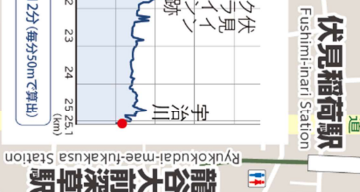
約9kmあります。大津から大阪までの舟運を開通するうえで、重要な区間となりました。特徴ある橋が数多く架かっており、春には運河沿いを、桜を見ながら歩くことができます。



④ 高松橋ひろば
十条通の高松橋東詰に令和2年に完成した「高松橋ひろば」。ひろばには、旧高松橋の橋脚のアーチ、石製の親柱や高欄が残されており、昔の面影を感じることができます。

- そすいさんぽルート
- そすいさんぽルート 大津-鴨川コース
- トノレ 桜スワット
- 琵琶湖疏水
- 琵琶湖疏水 (暗きよ)
- 河川

そすいさんぽ全コース概略図
そすいさんぽ川には、琵琶湖疏水を巡る3コースがあります。各コースに、琵琶湖からの距離を示す、10キロごとのマーカーが設置されています。※マーカーには、橋柱やフェンスへの触れも含まれます。



伏見稲荷駅
Fushimi-Inari Station

